

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870105644
法人名	福祉法人 愛寿会
事業所名	グループホームあいじゅ
所在地	松山市東方町814番地
自己評価作成日	平成 22 年 8 月 17 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成22年9月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

田園風景の中に住まいがあり、裏には川が流れ、春には桜並木、夏には畑いっぱい大輪の向日葵が咲き、秋にはサツマイモ畑になり住宅の前には季節の草花がいつも咲いています。 朝はリズム体操、松山コツコツ体操、合唱、合奏、プランに沿った歩行練習、散歩等おこなっています。しばらく休むとティータイムにお好みの飲み物をお出ししています。午後には楽しみにされている、入浴を一人一人ごゆっくりと入っていただいています。 地域の方との交流も自然に受け入れて頂いており、各種の行事に参加しています。一人一人の想いを大切に又ご家族様のご希望を丁寧に伺い少しでも現在の状態よりよい方向へと職員一同支援をおこなっています。その人らしさを最重要と考え対応しております。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは恵まれた静かな環境の中にあり、玄関及び居間は家庭的な雰囲気作りがされており、ユニット間の行き来も自由にできるようになっている。管理者及び職員は利用者一人ひとりを尊重しており、利用者、家族、職員で、「支援マップ」を作成し、利用者の把握に努め日々の暮らしを支えている。利用者は脳トレをしたり、編み物教室で作った作品を出展したり、絵本の読み聞かせを披露したり、外出も楽しんでりと自由に過ごしている。医療面においても24時間の連携がとれるようになっており、利用者も家族も安心してきている。また地域や併設の事業所との交流は積極的に行っており、地域との繋がりが新しい馴染みの関係作りができています。保育園児の訪問は楽しみの一つである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができて (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらい				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目
(評価項目の構成)

Ⅰ.理念に基づく運営

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

Ⅳ.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム あいじゅ

(ユニット名) 愛ユニット

記入者(管理者)

氏 名 青野 淑子

評価完了日 2010 年 8 月 17日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 職員で話し合って決めた理念を共有し、地域の人達と一人でも多く、地域の中に入っていけるよう支援を行っている。	
			(外部評価) 開設当時の理念を再構築して現在の理念としている。再度職員で話し合った結果、継続して実践していく事になり、各ユニットに掲示している。管理者と職員は理念を共有して利用者の日々の暮らしを支えている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域で開かれている、みらいクラブ、地区での文化祭、お祭り、みなみ保育園の来訪、近くの喫茶店に出かけ顔なじみになり、昔からここに住んでいるかのように親しみのある声かけがあるので喜んでいる。	
			(外部評価) ホームは積極的に地域との交流を行う努力をしている。月1回保育園との交流があり、利用者も園児が来るのを楽しみにしている。公民館活動や地域の行事に参加したり、「みらいクラブ」との交流等も行っている。また編み物の先生や他のボランティアの人にも来てもらって、利用者を支援してもらっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 地域での行事を民生員の方が前もって知らせてもらっているので参加したり、久谷中学校で認知症についてお話したり、道具を使って体験してもらいオレンジリングの大切さを理解してもらいサポーターになって頂く。 予防教室等にも参加して一人でも多くの人に理解して頂くように努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2ヶ月に一回開催している近況報告や取り組みのテーマに沿って話し合っている地域包括支援センター、市役所職員、民生委員、地域住民、保育園園長、市協職員の参加があり意見やアドバイスが得られサービスの向上に努めている。	
			(外部評価) 多くの人の参加を得て2か月に1回開催している。会議の内容としては、ホームの状況報告やテーマに沿った話し合い、講演をお願いしたり、利用者に体験を話してもらったり、その他意見交換を行っている。またかしこまった感じでなく多くの人が自由に意見が言える雰囲気作りに努めている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 推進会や事業者連絡会を活用したり社会福祉協議会の方をお願いして、オレンジリング、ブラブラネットづくりの指導を受け活用している。	
			(外部評価) 運営推進会議に市の職員や市社会福祉協議会の職員、包括支援センターの職員に参加してもらうことにより、普段から連携が取れており、相談や指導等ももらっている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束マニュアルを作成しみなで取り組んでいる。玄関入り口については日中開放しているが、出入り口の所は見守りが不十分なときのみ閉めている。玄関ホールは音楽を聴きながら、本を読んだりお茶を楽しんで頂き、出来るだけ出入り口は開放できるようつとめてる。	
			(外部評価) 身体拘束はホームの方針でしないこととなっている。勉強会を行い、職員全員で理解をして取り組んでいる。玄関は施錠していないが、ユニットごとの出入り口は状況に応じて施錠している。ユニット間は自由に行き来できるようになっている。一人で外出希望の利用者に対しては、職員同士が協力して見守りながら対応している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 職員会等で虐待になっていないか話し合ったり推進会のとき包括支援センターの方をお願いして勉強会を実施したが精神的虐待になっていないか職員同士言葉使いについて注意しあってよいGHになるように努力している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 5月包括支援センターの方をお願いして勉強会を開きわかりやすく説明していただいたので出席者の方も安心されていた。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入所時には契約書、重要説明事項について十分に説明を行い、理解納得して頂いたうえで契約している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 玄関ホールには苦情受付箱を設置している。 苦情が寄せられた場合にはマニュアルに沿って速やかに対応、回答を行う。 法人全体としても要望、苦情、解決委員会を開催し、頂いた要望、苦情が反映できるよう努めている。 面会時等に意見や要望を聞くようにしている。 (外部評価) 玄関に苦情受付箱を設置しているが、日頃から家族の訪問が多いので、その時に希望や意見を聞くことが多い。運営推進会議や家族会でも話を聞くよう心掛けている。また重要事項説明書に苦情の受付及び苦情対応に関する流れが記載されており、利用者及び家族に説明も行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) ワーカー会で職員の意見を聞き必要があれば主任会等で施設全体で話し合えるような仕組みになっている。 (外部評価) 管理者は、月1回会議などで職員の希望や提案、意見を聞くようにしている。また普段から管理者と職員は意見を言える関係ができており、状況に応じて話し合いを行い、業務に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 人事考課制度に従い評価を行っている。一人一人の個性や能力の把握に努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 法人内外の研修に参加する機会を増やしている。研修発表の場を作り、勉強会を開いている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 石井、久谷地区のグループホーム連絡会での勉強会に参加しているが相互訪問の機会が持てなかった。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 見学の段階からゆっくりと話し合いが出来る時間を持ち、徐々に本人の思いや不安を汲み取れるように努めている。 入居後も安心して暮らせるよう寄り添いコミュニケーションを大切にしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) ご家族との連絡を密にする事により、家族の思い、不安要望を聞き出し、それにそって職員が尊厳を守りながら、いい関係が築けるよう努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 相談時に本人、ご家族様の希望を聞き、法人全体、他業種の方々の意見を聞き、様々なサービス選択肢を提供し、一緒に考えるよう努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) お料理、工芸、行事等について色々助言を頂いたり、一緒に行くことにより、学ぶことも多く笑顔の絶えない暮らしが送れている。 おやつ作りを家族様と一緒に作ったり楽しく過ごしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご家族と一緒に行事に参加できるよう案内状を出したり面会時にも伺うなど工夫している。 3ヶ月に一回お手紙を送り近況報告をしている。(夏まつり、クリスマス会)	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 家族とのつながりを大切にしている。電話や通信等で交流が切れないよう支援している。 外出時には本人の馴染みの場所に尋ねたり、地域の人達に気軽に声をかけて頂けるよう支援している。 (外部評価) 利用者の中には近所の人もあり、地域との交流を深めるように努めている。また家族との関係も大切にしており、利用料の支払いは、あえて現金にし面会の機会を多くしている。また法人内の行事へ参加することにより、異動した職員に会ったりして、新たな馴染みの関係ができてきている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 一人ひとり食堂、リビングで安心して座る席が決まっていってトラブルになる事は少ないが、たまに気に入らなかつたりして口喧嘩になることもあるが、職員が中に入って話題を変えたりして対応している。 ティータイムの時には会話が弾みよい時間を過ごす事が出来ていると感じています。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退去後は家族の方にも推進会に参加していただきながら関係を大切にしている。家族の方もここに来ると利用者の方に声をかけてもらうので楽しみにしているとされています。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の暮らし中で、中々見えてこない部分もあるが思いマップを作成することで家族も知らなかったことが見えてきたりする。本人の思いを大切にしプランに取り入れている。 回想記録をノートに取りそれをもとに思いマップを作成しプランの中に取り入れている (外部評価) 利用者一人ひとりの「思いマップ」を作り、本人の今何をしたいか等の意向の把握に努めている。「思いマップ」を作成する事により、利用者の家族も知らなかった新しい発見があったり、得意なことが分かったりしている。居室に掲示して、家族及び職員も共有して利用者を支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人や家族面会時、職員との話し合いの中で情報を聞き送りノートや個人ケースに記録し共有している。利用者、ご家族との信頼関係を大切に何でも話し合えるよう努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人ひとり利用者とかかわる中で心身状態、精神状態を24時間シートに書き入れ職員同士で情報を共有している毎日倍たるチェックし健康面にもきをつけてる。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 利用者及び家族、職員で一人ひとりの想いマップを作成しそこからプランにつなげている。 プランの評価も1ヶ月毎に行いユニットごとに話し、今本人の希望に沿ったプランを作成して実施している。 (外部評価) 利用者一人ひとりについて、本人、家族、職員で「想いマップ」を作り、それを活用して会議で話し合いを行い、本人の日々の暮らしを支えるための介護計画を作成している。また月1回介護計画について話し合いを行い、検討し計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) センター方式24時間シートを使って日々の様子や精神状態を記録している。職員間で共有しながらプランの評価も毎月行い話し合っている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 併設の事業所との連帯を取りながら意見交換を行っている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 毎週月曜日、ボランティアの編み物教室、近隣の保育園との交流、地域行事への参加、公民館活動に力を入れ一人でも多く地域に出かけ楽しい生活が送れるよう支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 入居時かかりつけ医の希望を聞いて決めている。今ま でのかかりつけ医を希望される方もおられる。基本的 には家族対応だが、家族では中々分からない事もある ので職員も一緒に同行しています。又家族が一緒に行 けない場合は通院介助もおこなっている。 (外部評価) ホームの協力医療機関に希望して変わる利用者もいるが、本 人や家族の希望を大切に今までのかかりつけ医に受診するこ とも可能にしている。受診は家族にお願いしているが、日々 のことを知る職員が一緒にいく事も多い。協力医療機関から の往診もあり、24時間連絡体制が取れているため、本人や 家族も安心感がある。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) ホームの看護師及び法人内の他事業所の看護師と連帯 を取りながら健康管理を行っている。(24時間体制 が取れている)	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院先の病院に面会に行ったり家族に状態や意向を開 きながら病院(担当医)にも確認している。 面会に行くことにより利用者様が安心して入院生活が 送れるよう努めている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 面会時等に家族、本人の想いを聞くようにしている。 こちらで最後を迎えたいと希望されている方もおられ ます。現在の所看取りの実施はないが、いつでも対応 できるよう勉強会を開いている。 (外部評価) 看取りに関する指針を入居時に説明し、利用者及び家 族が希望し、かかりつけ医と話し合いを行い、その結 果ホームで看る事が可能である場合には、看取る方針 である事を伝えている。今のところ看取りの経験はな いが、職員は看取りについて研修会に参加したり、勉 強会も行っている。	ホームで重度化や終末期を看取る場合には、他職種と のチームケアが必要とされる。職員は本人や家族への 支援と共に、他の利用者に対する支援も行うことが求 められるため、看取りに関する勉強会は継続して行う ことを期待したい。

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 毎年緊急時の処置の仕方を法人内で消防署の指導を受けている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回併設の事業所と一緒にしている。 ホーム内では毎月1回避難経路や手順の確認を行っている。 今年初めにスプリンクラーを設置している。もしもの時は併設の事業所からの応援体制が取れている。 (外部評価) 年2回法人全体で避難訓練を行っている。またホーム独自の訓練として毎月1回避難経路の確認等しながら行っている。スプリンクラーの設置も行っている。また非常時や緊急時には併設の事業所にすぐ連絡できるようになっており、協力体制が整っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 事務所理念にも掲げ一人ひとりの尊厳を守りゆっくりと温かい声かけに心がけている。 居室に入るときもノックを行い、本人の理解を取って訪室するようにしている。 個人情報やワーカー室扱いにしている。廃棄する場合はシュレッダーにかけて注意を払っている。 (外部評価) 居室を訪ねる時には必ずノックをし声かけを行っている。入浴時やトイレの誘導及び使用時には本人にも他の利用者に対しても配慮している。歯磨きの誘導もさりげなく自然に行っている。また利用者に対する言葉遣いには気をつけており、職員は穏やかな声かけを心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日常生活の中で出来るだけ本人の気持ちを大切にしている。声かけにも決め付けるような言葉かけをせず、あくまで本人が納得して決めて頂く様にしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 1ヶ月の行事は法人内の車の調整が必要なので話し合いながらあいた日に出かけるようにしている。 散歩やAコープへのお買い物は本人の希望があれば出かけている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 移動美容室(月2回)利用される方、馴染みの所へ家族と出かけられたり、店の方がお迎えに来られたりしている。外出の服は自分が選ばれたり一緒に選んでいます。 薄化粧して楽しく出かけられています。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 盛付け、片付け、おやつ作り一緒に行っているが、年々出来る人が少なくなった。畑での野菜作りも畑まで遠く足元が悪く転んでもいけないので、今は行っていない。家族様から頂いた野菜と一緒に料理している。 気分転換を兼ね外食に行き好きなものを選んでもらっています。 (外部評価) 調理は法人内の厨房で行っているが、盛り付けはホームで行っている。後片付け等は利用者も介護度が高くなり、以前ほどできる人がいない。おやつ作りはホームで行うこともあり、利用者も職員と一緒に楽しみながら作っている。職員は弁当持参であるが、利用者の中に入り一緒に会話を楽しみながら食事している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) ケアチェック表で個々の食事量、水分量を把握している。食事量の減った人は、食事形態を変えたり主治医と家族様と相談しながら対応している。 日々の観察を怠らないようにしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 起床時と毎食後の口腔ケアを行い、終わったら歯ブラシ、コップを良く洗浄し乾燥機にかけて感染予防に努めている。 声かけしながら介助の必要な人は支援を行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 誘導の必要な方にはチェックしながら排泄リズムを把握し声かけを行っている。気持ちのよい排泄がトイレでできるよう支援している。 (外部評価) 利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し支援している。自分で行く人もあるが、誘導が必要な人の方が多い。夜間はオムツ使用している利用者也、昼間は紙パンツに変えてトイレ誘導を心掛けている。特養から来た利用者がオムツからトイレに行けるようになった事例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) ケアチェック表で排便を確認している。便秘の方には水分補給、散歩、運動等を取り入れたり主治医に相談しながら下剤でコントロールを行っている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 健康状態に移乗のない方はいつでも入浴できるようにしている。一人浴槽で、職員が見守り、介助を行いゆっくり入ってもらっている。車椅子の方は二人対応を徹底し安全面に気をつけている。 (外部評価) 入浴時間は午後からであるが、本人に希望を聞いて入浴してもらっている。入浴のチェックを行い、毎日または1日おきに入ってもらえるよう支援している。入りたがらない人には無理強いをすることなく日を変えたり、声かけなど工夫して利用者に合わせて支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 夜間はほとんどの方が良眠されている。眠れなかったり、本人希望で昼寝したい方は休んでもらっている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬についての勉強会に参加したり、誤薬、服薬忘れをしないように気をつけている。服薬時には職員同士声を出して確認、本人に確認してもらって誤薬のないよう慎重に行っている。 薬の変更時は送りノートを利用し周知徹底している。薬の保管はワーカー室の鍵をかけたロッカー中、看護師が管理を行っている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 個別に想いマップを作成し楽しみや好きなもの、生活歴を聞きながら自分の役割を見つけこなしていきながら、楽しみや達成感を体験していただき、次へのステップにつづけていけるようにしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 歩行練習を兼ねボケ封じ観音様までお参りに行ったり少人数での茶房「央」でお茶を楽しんだり、日々の会話の中で希望を聞きドライブや外食、お参りを計画実施している。 (外部評価) 利用者の希望を聞いてユニット毎に毎月計画を立て、合同で利用者全員が外出できるよう支援している。ドライブ、外食、近くの喫茶店等に行くことも利用者の楽しみでおしゃれをして出かけている。また併設の事業所の観音様までお参りするのも日課となっており、外気に触れる機会を作っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 自分でお小遣いを所持し自分で払われている方、家族様と話し合いでこちらで預かっている方もおられます。 可能な限りご自分で支払われるよう見守りを行っています。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 請求書を送る時、3ヶ月に1回お手紙を入れたり年賀状が出されるようお手伝いしている。 電話は本人の希望があれば支援している。職員も定期的に近況報告している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 入居者が集まるリビングにはソファを用意しテレビを見たりお話ができる様にしている。玄関ホール、食堂にはちぎり絵で季節感を取り入れている。西側にはよしずで日除けを行っている。 エアコンで温度調整を行っている。 (外部評価) それぞれユニット毎に、ソファ等工夫して置かれており、利用者は昼食後好きな場所へ移動して過ごしている。ユニット同士行き来ができるようになっており、利用者は両ユニットの職員と顔馴染みで、気軽に話をしている。壁には季節を感じられる飾り付けがされており、家庭にいるようなほっとする空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) リビングのソファもそれぞれ自分の安心する居場所がありテレビを見たり利用者同士お話しされたり、家族、職員との会話の居場所になっている。 ほとんどの方がリビングで過ごされている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 今まで使っていたベッドや布団、椅子等を持ち込んで頂き、家庭的な雰囲気作りを心がけている。家族の写真や趣味の物を飾る事で少しでも心地よく過ごして頂ける様に努めている。 (外部評価) 居室はフローリングや畳の部屋があり、それぞれ工夫して家具等も配置しており、その人らしい個性的な部屋となっている。利用者によって家庭から持ち込まれたものは違っているが、部屋の掃除も行き届き、落ち着いた雰囲気づくりがされている。また利用者の「想いマップ」が壁に飾られており、全職員把握でき共有できている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 利用者の出来る事を行って頂き、「やる気」を起こさせるような声かけを行ったり、「トイレにはノックをしてから開けるように」と書いて貼ったり安全面に気をつけ少しでも自立した生活が送れるよう工夫している。又やる気を起こすために、お楽しみ券を発行している。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870105644
法人名	福祉法人 愛寿会
事業所名	グループホームあいじゅ
所在地	松山市東方町814番地
自己評価作成日	平成22 年 8 月 17 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成22年9月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

田園風景の中に住まいがあり、裏には川が流れ、春には桜並木、夏には畑いっぱい大輪の向日葵が咲き、秋にはサツマイモ畑になり住宅の前には季節の草花がいつも咲いています。 朝はリズム体操、松山コツコツ体操、合唱、合奏、プランに沿った歩行練習、散歩等おこなっています。しばらく休むとティータイムにお好みの飲み物をお出ししています。午後には楽しみにされている、入浴を一人一人ごゆっくりと入っていただいています。 地域の方との交流も自然に受け入れて頂いており、各種の行事に参加しています。一人一人の想いを大切に又ご家族様のご希望を丁寧に伺い少しでも現在の状態よりよい方向へと職員一同支援をおこなっています。その人らしさを最重要と考え対応しております。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは恵まれた静かな環境の中にあり、玄関及び居間は家庭的な雰囲気作りがされており、ユニット間の行き来も自由にできるようになっている。管理者及び職員は利用者一人ひとりを尊重しており、利用者、家族、職員で、「支援マップ」を作成し、利用者の把握に努め日々の暮らしを支えている。利用者は脳トレをしたり、編み物教室で作った作品を出展したり、絵本の読み聞かせを披露したり、外出も楽しんでりと自由に過ごしている。医療面においても24時間の連携がとれるようになっており、利用者も家族も安心してきている。また地域や併設の事業所との交流は積極的にしており、地域との繋がりがりや新たな馴染みの関係作りができています。保育園児の訪問は楽しみの1つである。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目
(評価項目の構成)

Ⅰ.理念に基づく運営

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

Ⅳ.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名

グループホーム あいじゅ

(ユニット名)

寿ユニット

記入者(管理者)

氏 名

大栄 幸枝

評価完了日

2010 年 8 月 17日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 職員で話し合って決めた理念を共有し、地域の人達と一人でも多く、地域の中に入っていけるよう支援を行っている。	
			(外部評価) 開設当時の理念を再構築して現在の理念としている。再度職員で話し合った結果、継続して実践していく事になり、各ユニットに掲示している。管理者と職員は理念を共有して利用者の日々の暮らしを支えている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域で開かれている、みらいクラブ、地区での文化祭、お祭り、みなみ保育園の来訪、近くの喫茶店に出かけ顔なじみになり、昔からここに住んでいるかのように親しみのある声かけがあるので喜んでいる。	
			(外部評価) ホームは積極的に地域との交流を行う努力をしている。月1回保育園との交流があり、利用者も園児が来るのを楽しみにしている。公民館活動や地域の行事に参加したり、「みらいクラブ」との交流等も行っている。また編み物の先生や他のボランティアの人にも来てもらって、利用者を支援してもらっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 地域での行事を民生員の方が前もって知らせてもらっているので参加したり、久谷中学校で認知症についてお話したり、道具を使って体験してもらいオレンジリングの大切さを理解してもらいサポーターになって頂く。 予防教室等にも参加して一人でも多くの人に理解して頂くように努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2ヶ月に一回開催している近況報告や取り組みのテーマに沿って話し合っている地域包括支援センター、市役所職員、民生委員、地域住民、保育園園長、市協職員の参加があり意見やアドバイスが得られサービスの向上に努めている。 (外部評価) 多くの人の参加を得て2か月に1回開催している。会議の内容としては、ホームの状況報告やテーマに沿った話し合い、講演をお願いしたり、利用者に体験を話してもらったり、その他意見交換を行っている。またかしこまった感じでなく多くの人が自由に意見が言える雰囲気作りに努めている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 推進会や事業者連絡会を活用したり社会福祉協議会の方をお願いして、オレンジリング、ブラブラネットづくりの指導を受け活用している。 (外部評価) 運営推進会議に市の職員や市社会福祉協議会の職員、包括支援センターの職員に参加してもらうことにより、普段から連携が取れており、相談や指導等ももらっている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束マニュアルを作成しみなで取り組んでいる。玄関入り口については日中開放しているが、出入り口の所は見守りが不十分なときのみ閉めている。玄関ホールは音楽を聴きながら、本を読んだりお茶を楽しんで頂き、出来るだけ出入り口は開放できるようつとめてる。 (外部評価) 身体拘束はホームの方針でしないこととなっている。勉強会を行い、職員全員で理解をして取り組んでいる。玄関は施錠していないが、ユニットごとの出入り口は状況に応じて施錠している。ユニット間は自由に行き来できるようになっている。一人で外出希望の利用者に対しては、職員同士が協力して見守りながら対応している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 職員会等で虐待になっていないか話し合ったり推進会のとき包括支援センターの方をお願いして勉強会を実施したが精神的虐待になっていないか職員同士言葉使いについて注意しあってよいGHになるように努力している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 5月包括支援センターの方をお願いして勉強会を開きわかりやすく説明していただいたので出席者の方も安心されていた。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入所時には契約書、重要説明事項について十分に説明を行い、理解納得して頂いたうえで契約している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 玄関ホールには苦情受付箱を設置している。 苦情が寄せられた場合にはマニュアルに沿って速やかに対応、回答を行う。 法人全体としても要望、苦情、解決委員会を開催し、頂いた要望、苦情が反映できるよう努めている。 面会時等に意見や要望を聞くようにしている。 (外部評価) 玄関に苦情受付箱を設置しているが、日頃から家族の訪問が多いので、その時に希望や意見を聞くことが多い。運営推進会議や家族会でも話を聞くよう心掛けている。また重要事項説明書に苦情の受付及び苦情対応に関する流れが記載されており、利用者及び家族に説明も行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) ワーカー会で職員の意見を聞き必要があれば主任会等で施設全体で話し合えるような仕組みになっている。 (外部評価) 管理者は、月1回会議などで職員の希望や提案、意見を聞くようにしている。また普段から管理者と職員は意見を言える関係ができており、状況に応じて話し合いを行い、業務に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 人事考課制度に従い評価を行っている。一人一人の個性や能力の把握に努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 法人内外の研修に参加する機会を増やしている。研修発表の場を作り、勉強会を開いている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 石井、久谷地区のグループホーム連絡会での勉強会に参加しているが相互訪問の機会が持てなかった。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 見学の段階からゆっくりと話し合いが出来る時間を持ち、徐々に本人の思いや不安を汲み取れるように努めている。 入居後も安心して暮らせるよう寄り添いコミュニケーションを大切にしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) ご家族との連絡を密にする事により、家族の思い、不安要望を聞き出し、それにそって職員が尊厳を守りながら、いい関係が築けるよう努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 相談時に本人、ご家族様の希望を聞き、法人全体、他業種の方々の意見を聞き、様々なサービス選択肢を提供し、一緒に考えるよう努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) お料理、工芸、行事等について色々助言を頂いたり、一緒に行くことにより、学ぶことも多く笑顔の絶えない暮らしが送れている。 おやつ作りを家族様と一緒に作ったり楽しく過ごしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご家族と一緒に行事に参加できるよう案内状を出したり面会時にも伺うなど工夫している。 3ヶ月に一回お手紙を送り近況報告をしている。(夏まつり、クリスマス会)	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 家族とのつながりを大切にしている。電話や通信等で交流が切れないよう支援している。 外出時には本人の馴染みの場所に尋ねたり、地域の人達に気軽に声をかけて頂けるよう支援している。 (外部評価) 利用者の中には近所の人もあり、地域との交流を深めるように努めている。また家族との関係も大切にしており、利用料の支払いは、あえて現金にし面会の機会を多くしている。また法人内の行事へ参加することにより、異動した職員に会ったりして、新たな馴染みの関係ができてきている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 一人ひとり食堂、リビングで安心して座る席が決まっていってトラブルになる事は少ないが、たまに気に入らなかつたりして口喧嘩になることもあるが、職員が中に入って話題を変えたりして対応している。 ティータイムの時には会話が弾みよい時間を過ごす事が出来ていると感じています。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退去後は家族の方にも推進会に参加していただきながら関係を大切にしている。家族の方もここに来ると利用者の方に声をかけてもらうので楽しみにしているといわれています。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の暮らし中で、中々見えてこない部分もあるが思いマップを作成することで家族も知らなかったことが見えてきたりする。本人の思いを大切にプランに取り入れている。 (外部評価) 利用者一人ひとりの「思いマップ」を作り、本人の今何をしたいか等の意向の把握に努めている。「思いマップ」を作成する事により、利用者の家族も知らなかった新しい発見があったり、得意なことが分かったりしている。居室に掲示して、家族及び職員も共有して利用者を支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人や家族面会時、職員との話し合いの中で情報を聞き送りノートや個人ケースに記録し共有している。利用者、ご家族との信頼関係を大切に何でも話し合えるよう努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人ひとり利用者とかかわる中で心身状態、精神状態を24時間シートに書き入れ職員同士で情報を共有している毎日倍たるチェックし健康面にもきをつけてる。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 利用者及び家族、職員で一人ひとりの想いマップを作成しそこからプランにつなげている。 プランの評価も1ヶ月毎に行いユニットごとに話し、今本人の希望に沿ったプランを作成して実施している。 (外部評価) 利用者一人ひとりについて、本人、家族、職員で「想いマップ」を作り、それを活用して会議で話し合いを行い、本人の日々の暮らしを支えるための介護計画を作成している。また月1回介護計画について話し合いを行い、検討し計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) センター方式24時間シートを使って日々の様子や精神状態を記録している。職員間で共有しながらプランの評価も毎月行い話し合っている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 併設の事業所との連帯を取りながら意見交換を行っている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 毎週月曜日、ボランティアの編み物教室、近隣の保育園との交流、地域行事への参加、公民館活動に力を入れ一人でも多く地域に出かけ楽しい生活が送れるよう支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 入居時かかりつけ医の希望を聞いて決めている。今ま でのかかりつけ医を希望される方もおられる。基本的 には家族対応だが、家族では中々分からない事もある ので職員も一緒に同行しています。又家族が一緒に行 けない場合は通院介助もおこなっている。 (外部評価) ホームの協力医療機関に希望して変わる利用者もいるが、本 人や家族の希望を大切に今までのかかりつけ医に受診するこ とも可能にしている。受診は家族にお願いしているが、日々 のことを知る職員が一緒にいく事も多い。協力医療機関から の往診もあり、24時間連絡体制が取れているため、本人や 家族も安心感がある。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) ホームの看護師及び法人内の他事業所の看護師と連帯 を取りながら健康管理を行っている。(24時間体制 が取れている)	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院先の病院に面会に行ったり家族に状態や意向を開 きながら病院(担当医)にも確認している。 面会に行くことにより利用者様が安心して入院生活が 送れるよう努めている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 面会時等に家族、本人の想いを聞くようにしている。 こちらで最後を迎えたいと希望されている方もおられ ます。現在の所看取りの実施はないが、いつでも対応 できるよう勉強会を開いている。 (外部評価) 看取りに関する指針を入居時に説明し、利用者及び家 族が希望し、かかりつけ医と話し合いを行い、その結 果ホームで看る事が可能である場合には、看取る方針 である事を伝えている。今のところ看取りの経験はな いが、職員は看取りについて研修会に参加したり、勉 強会も行っている。	ホームで重度化や終末期を看取る場合には、他職種と のチームケアが必要とされる。職員は本人や家族への 支援と共に、他の利用者に対する支援も行うことが求 められるため、看取りに関する勉強会は継続して行う ことを期待したい。

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 毎年緊急時の処置の仕方を法人内で消防署の指導を受けている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回併設の事業所と一緒にしている。 ホーム内では毎月1回避難経路や手順の確認を行っている。 今年初めにスプリンクラーを設置している。もしもの時は併設の事業所からの応援体制が取れている。 (外部評価) 年2回法人全体で避難訓練を行っている。またホーム独自の訓練として毎月1回避難経路の確認等しながら行っている。スプリンクラーの設置も行っている。また非常時や緊急時には併設の事業所にすぐ連絡できるようになっており、協力体制が整っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 事務所理念にも掲げ一人ひとりの尊厳を守りゆっくりと温かい声かけに心がけている。 居室に入るときもノックを行い、本人の理解を取って訪室するようにしている。 個人情報やワーカー室扱いにしている。廃棄する場合はシュレッダーにかけて注意を払っている。 (外部評価) 居室を訪ねる時には必ずノックをし声かけを行っている。入浴時やトイレの誘導及び使用時には本人にも他の利用者に対しても配慮している。歯磨きの誘導もさりげなく自然に行っている。また利用者に対する言葉遣いには気をつけており、職員は穏やかな声かけを心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日常生活の中で出来るだけ本人の気持ちを大切にしている。声かけにも決め付けるような言葉かけをせず、あくまで本人が納得して決めて頂く様にしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 1ヶ月の行事は法人内の車の調整が必要なので話し合いながらあいた日に出かけるようにしている。 散歩やAコープへのお買い物は本人の希望があれば出かけている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 移動美容室(月2回)利用される方、馴染みの所へ家族と出かけられたり、店の方がお迎えに来られたりしている。外出の服は自分が選ばれたり一緒に選んでいます。 薄化粧して楽しく出かけられています。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 盛付け、片付け、おやつ作り一緒に行っているが、年々出来る人が少なくなった。畑での野菜作りも畑まで遠く足元が悪く転んでもいけないので、今は行っていない。家族様から頂いた野菜と一緒に料理している。 気分転換を兼ね外食に行き好きなものを選んでもらっています。 (外部評価) 調理は法人内の厨房で行っているが、盛り付けはホームで行っている。後片付け等は利用者も介護度が高くなり、以前ほどできる人がいない。おやつ作りはホームで行うこともあり、利用者も職員と一緒に楽しみながら作っている。職員は弁当持参であるが、利用者の中に入り一緒に会話を楽しみながら食事している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) ケアチェック表で個々の食事量、水分量を把握している。食事量の減った人は、食事形態を変えたり主治医と家族様と相談しながら対応している。 日々の観察を怠らないようにしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 起床時と毎食後の口腔ケアを行い、終わったら歯ブラシ、コップを良く洗浄し乾燥機にかけて感染予防に努めている。 声かけしながら介助の必要な人は支援を行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 誘導の必要な方にはチェックしながら排泄リズムを把握し声かけを行っている。気持ちのよい排泄がトイレでできるよう支援している。 (外部評価) 利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し支援している。自分で行く人もあるが、誘導が必要な人の方が多い。夜間はオムツ使用している利用者也、昼間は紙パンツに変えてトイレ誘導を心掛けている。特養から来た利用者がオムツからトイレに行けるようになった事例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) ケアチェック表で排便を確認している。便秘の方には水分補給、散歩、運動等を取り入れたり主治医に相談しながら下剤でコントロールを行っている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 健康状態に移乗のない方はいつでも入浴できるようにしている。一人浴槽で、職員が見守り、介助を行いゆっくり入ってもらっている。車椅子の方は二人対応を徹底し安全面に気をつけている。 (外部評価) 入浴時間は午後からであるが、本人に希望を聞いて入浴してもらっている。入浴のチェックを行い、毎日または1日おきに入ってもらえるよう支援している。入りたがらない人には無理強いをすることなく日を変えたり、声かけなど工夫して利用者に合わせて支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 夜間はほとんどの方が良眠されている。眠れなかったり、本人希望で昼寝したい方は休んでもらっている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬についての勉強会に参加したり、誤薬、服薬忘れをしないように気をつけている。服薬時には職員同士声を出して確認、本人に確認してもらって誤薬のないよう慎重に行っている。 薬の変更時は送りノートを利用し周知徹底している。薬の保管はワーカー室の鍵をかけたロッカー中、看護師が管理を行っている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 個別に想いマップを作成し楽しみや好きなもの、生活歴を聞きながら自分の役割を見つけこなしていきながら、楽しみや達成感を体験していただき、次へのステップにつづけていけるようにしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 歩行練習を兼ねボケ封じ観音様までお参りに行ったり少人数での茶房「央」でお茶を楽しんだり、日々の会話の中で希望を聞きドライブや外食、お参りを計画実施している。 (外部評価) 利用者の希望を聞いてユニット毎に毎月計画を立て、合同で利用者全員が外出できるよう支援している。ドライブ、外食、近くの喫茶店等に行くことも利用者の楽しみでおしゃれをして出かけている。また併設の事業所の観音様までお参りするのも日課となっており、外気に触れる機会を作っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 自分でお小遣いを所持し自分で払われている方、家族様と話し合いでこちらで預かっている方もおられます。 可能な限りご自分で支払われるよう見守りを行っています。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 請求書を送る時、3ヶ月に1回お手紙を入れたり年賀状が出されるようお手伝いしている。 電話は本人の希望があれば支援している。職員も定期的に近況報告している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 入居者が集まるリビングにはソファを用意しテレビを見たりお話が出来る様にしている。玄関ホール、食堂にはちぎり絵で季節感を取り入れている。西側にはよしずで日除けを行っている。 エアコンで温度調整を行っている。 (外部評価) それぞれユニット毎に、ソファ等工夫して置かれており、利用者は昼食後好きな場所へ移動して過ごしている。ユニット同士行き来ができるようになっており、利用者は両ユニットの職員と顔馴染みで、気軽に話をしている。壁には季節を感じられる飾り付けがされており、家庭にいるようなほっとする空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) リビングのソファもそれぞれ自分の安心する居場所がありテレビを見たり利用者同士お話しされたり、家族、職員との会話の居場所になっている。 ほとんどの方がリビングで過ごされている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 今まで使っていたベッドや布団、椅子等を持ち込んで頂き、家庭的な雰囲気作りを心がけている。家族の写真や趣味の物を飾る事で少しでも心地よく過ごして頂ける様に努めている。 (外部評価) 居室はフローリングや畳の部屋があり、それぞれ工夫して家具等も配置しており、その人らしい個性的な部屋となっている。利用者によって家庭から持ち込まれたものは違っているが、部屋の掃除も行き届き、落ち着いた雰囲気づくりがされている。また利用者の「想いマップ」が壁に飾られており、全職員把握でき共有できている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 利用者の出来る事を行って頂き、「やる気」を起こさせるような声かけを行ったり、「トイレにはノックをしてから開けるように」と書いて貼ったり安全面に気をつけ少しでも自立した生活が送れるよう工夫している。又やる気を起こすために、お楽しみ券を発行している。	